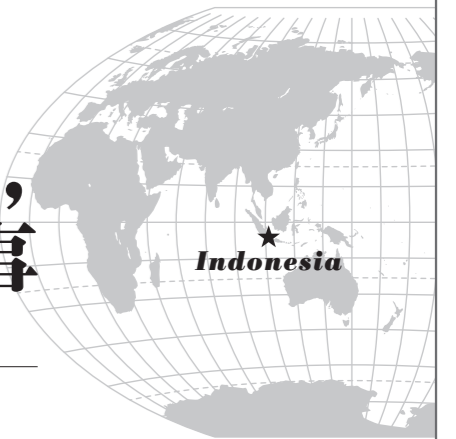


ファトマワティ駅完成予想パース

ジャカルタ大量高速 輸送システム CP101, CP102工区建設工事



東急建設株式会社 国際事業部 ジャカルタMRT作業所 作業所長

野村泰由

Yasuyoshi Nomura

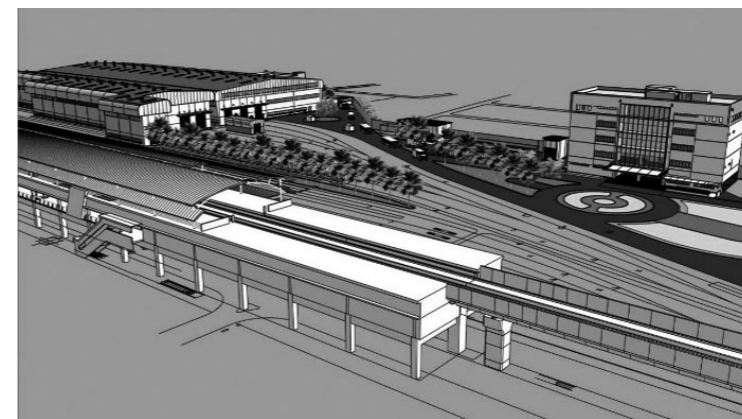
インドネシア国の紹介

インドネシアは東南アジア南部に位置する共和制国家、一七、〇〇〇以上の島々が東西約五、〇〇〇キロメートル（アメリカ合衆国と同じ）、南北約一、九〇〇キロメートルにわたり広がる世界最大の島嶼国家である。人口は二・四億人を超える世界第四位の規模であり、また、世界最大のイスラム人口国としても知られている。そのうち半数以上が全国土面積の約七％に過ぎないジャワ島に集中している。そのようなインドネシア国の経済・社会発展では人口が集中するジャワ島内、首都であるジャカルタ首都圏の効率的な交通ネットワークの整備を進めることが大きな課題となっている。

プロジェクトの紹介

ジャカルタ首都圏の人口は、二、二〇〇万人に達し、近年、特に顕著であるジャカルタ郊外の人口の伸びに伴い、当該地域からジャカルタ中心地域への交通量も増加の一途を辿っている。ジャカルタ首都圏の交通は著しく道路交通に依存しており、また、ジャカルタ首都圏の車両登録台数の増加により更なる混雑が懸念されている。このような状況の中、鉄道輸送の向上が重要課題のひとつとされており、交通混雑が深刻な

ジャカルタ首都圏において、日本の技術、資金協力のもと、本邦技術活用型円借款事業としてインドネシア初の地下鉄工事である都市高速鉄道システム（総延長約一五・七キロメートル、以下「MRT」という）の建設が進められている。この事業により、旅客輸送力の増強を図り、もって同首都圏の交通渋滞および環境の改善が期待されている。



車両基地完成予想パース

工事概要

当MRTプロジェクト（その1工事）は高架路線九・八キロメートル（七駅）、地下路線五・九キロメートル（六駅）を複線にて構築するものであり、車両基地を含む高架路線三工区および地下路線三工区、合計六工区に分割されている。

弊社は現地大手建設会社ウィジャヤ・カルヤ

高架標準部
スパン・パイ・スパン工法



長大橋部
バランスカンチレバー工法

と共同企業体を組み、その内の起点方、第一、二工区を受注した。

工事内容は両工区として三高架駅を含む高架延長（PC一室箱桁）四・九キロメートル、並びに起点方に車両基地（八・三キロメートル）を構築する。工事の特徴としては公共道路中央部を占有しての施工となる。上部工においては高架標準部ではスパン・パイ・スパン工法、また長大橋（支間長七七メートル、曲率半径一八〇メートル）はバランスカンチレバー方式にて架設する。長大橋施工は、高速道路上での施工となる為、技術面、安全面においても極めて難易度が高い。

終わりに

インドネシア初の地下鉄、また目抜き通りに位置するこの国家プロジェクトに携わる者として、未だ土地収用など多くの問題を抱えている中で早期完成、日本の技術移転を行うことを目指すが、以前、ある研究所レポートでインドネシアにおいて仕事をする上で五つの「あ」がポイントであると学んだ。「あせらず」「あわてず」「あきらめず」「あてにしすぎず」「あなどらさず」。まさに全てが当てはまる。工期が決まっている中で、これらの落とし所を探り、発注者の日系企業に求める高い要求に応えながら、インドネシアでのものづくりに貢献したいと思う。